

2020年9月17日制定

埼玉東萌短期大学は、建学の精神、学校訓、教育研究上の目的、人材養成の目的を達成するために、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生が本学の学びの過程で、本学が定める学習成果を高い水準で実現するための評価の基本方針を、アセスメント・ポリシーとして定めることとする。

I. 埼玉東萌短期大学アセスメント・ポリシーの3つの水準

本学が単科の短期大学であることから、全学レベルと教育プログラム（学科）レベルの水準は同一のものとする。

水 準	水準内容
全学・教育プログラムレベル	2年間の学習成果の到達度を検証、評価する。幼児保育学科における教育課程全体を通じた学習成果が、どの水準で、どのように達成されたかと合わせて、教育課程以外のプログラムによる学習による成果についても検証、評価する。
授業科目レベル	授業科目における学習成果の到達度を検証し、評価する。それぞれの授業科目の学習目標、学習内容が、どの水準でどのように達成されたかを明らかにする。
学生個人レベル	学生ごとの学習到達度や人間的な成長の過程の記録により構成され、各学生の学習目標、学習内容、人間的な成長について、どの水準でどのように達成されたかを明らかにする。

II. 各水準の評価の対象

1. 「全学・教育プログラムレベル」における評価の対象

(1) 埼玉東萌短期大学「学位授与の方針」

埼玉東萌短期大学幼児保育学科は、「以愛為人」の精神を心に刻み、自尊・創造・共生の教を人生の指針として豊かな教養と感性を育み、子どもの心の世界を受けとめられる心性を持って現代社会が必要とする保育・幼児教育の専門的な知識と技能を学び、専門的な実践的資質能力の基礎を確実に身につけるとともに、高度情報化社会、知識基盤社会に必要な人間力（課題発見・課題解決能力やコミュニケーション能力、自己啓発力、共働の精神、倫理観・規範意識、社会性と礼節の修得など）の基本となる能力を身につけた者に、短期大学士（保育学）の学位を授与する。

(2) 埼玉東萌短期大学「学習成果」

埼玉東萌短期大学幼児保育学科の総合的な教育の課程で、①「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学び、②幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養い、③保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育み、④子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解し、⑤保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につけ、⑥学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨いて、⑦生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培い、⑧保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となることを、学習成果とする。

◇ 埼玉東萌短期大学「学位授与の方針」と「学習成果」の関係

埼玉東萌短期大学幼児保育学科の教育課程により、8つの学習成果を達成することにより、埼玉東萌短期大学が定めた学位授与の方針に基づいて、短期大学士（保育学）の学位を授与する。8つの学習成果と学位授与の方針の評価対象は以下の対応関係にある。

学習成果	対応する学位授与の方針	学位授与の方針
① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	a, b	a 「以愛為人」の精神を理解し、実践しようとしている。
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	c, g	b 自尊・創造・共生の教えを理解し、人生の指針として実践しようとしている。
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	a, b, d	c 豊かな教養と感性を育む学習と生活を心がけている。
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	d, e, f	d 子どもの世界を受けとめられる心性を持って学生生活、社会生活を送ろうとしている。
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	e, f	e 現代社会が必要とする保育・幼児教育の専門的な知識や技能を学び、生かそうとしている。
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	b, f, g	f 専門的な実践的資質能力の基礎を確実に身につけている。
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	a, b, e, g	g 高度情報社会、知識基盤社会に必要な人間力の基本となる能力を身につけている。
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	a, b, f, g	

(3) 学士力

- ① 知識・理解
 - (a) 多文化・異文化に関する知識の理解
 - (b) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
- ② 汎用的技能
 - (a) コミュニケーション・スキル
 - (b) 数量的スキル
 - (c) 情報リテラシー
 - (d) 論理的思考力
 - (e) 問題解決能力
- ③ 態度・志向性
 - (a) 自己管理力
 - (b) チームワーク、リーダーシップ
 - (c) 倫理観
 - (d) 市民としての社会的責任
 - (e) 生涯学習力
- ④ 総合的な学習経験と創造的思考力

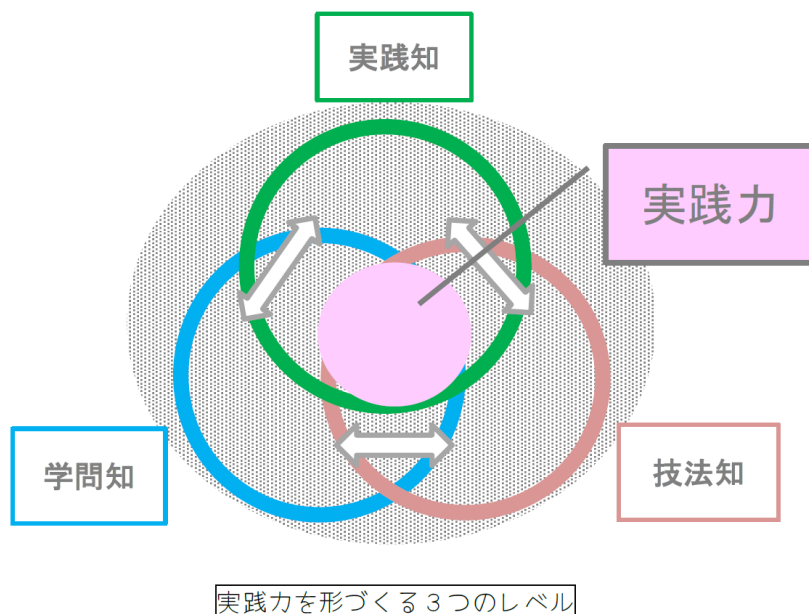
(4) 埼玉東萌短期大学「実践力のある保育者へのみちすじ」

「実践力のある保育者へのみちすじ」は埼玉東萌短期大学幼児保育学科において、実践力のある保育者となっていくみちすじ、そのための教育内容などをまとめた本学の基本方針を示す冊子である。

- ① 「実践力の3つの要素」が示す評価内容の到達度
 - (a) 「自尊」 自信を持って仕事のできる保育者＝確かな保育力を持つ保育者
 - ☐ 理念と制度の理解
 - ☐ 発達の理解
 - ☐ 保育の方法と技術
 - ☐ 計画立案、記録と評価
 - ☐ 支援、相談、運営
 - ☐ 養護、障害の理解と対応
 - (b) 「創造」 成長しつづけることのできる保育者＝得意を育て、挑戦する保育者
 - ☐ 省察力（振り返る力）
 - ☐ 課題発見力
 - ☐ 問題解決力
 - ☐ 継続力
 - ☐ 論理的思考力
 - ☐ 感動する力
 - (c) 「共生」 愛される保育者＝つながる力を持つ保育者
 - ☐ 社会性とマナー

- ☐ コミュニケーション力
- ☐ 連携する力
- ☐ 多様な子どもやその家族と対応する力
- ☐ 違いを認め、他の人の考えを受け入れる力
- ☐ 豊かな感性

② 「実践力を磨く3つの知」が示す評価内容の到達度



【学問知】学問・研究の成果

【技法知】身につけたさまざまな技法

【実践知】さまざまな場面で実際に発揮される力

③ 各学期末の到達度評価、フィールド別の到達度評価

pp6-7 に掲載。

④ 実践力のある保育者に必要な力の到達度評価のためのルーブリック

4つのフィールドについて、評価の観点別のルーブリック評価を示している。

pp8-11 に掲載。

(5) その他の評価対象

- ① 建学の精神と学校訓
- ② 本学の教育研究上の目的と人材育成に係る目的
- ③ 3つのポリシー
- ④ カリキュラム・フローチャート
- ⑤ カリキュラム・ツリー
- ⑥ カリキュラム・マップ
- ⑦ 年間行事予定
- ⑧ 授業概要（シラバス）
- ⑨ ナンバリング

- ⑩ シラバス作成のためのガイドライン
- ⑪ 時間割
- ⑫ 実習ガイドブック
- ⑬ 実習評価表
- ⑭ 学生募集要項
- ⑮ 入学試験選考評価基準
- ⑯ 学生便覧
- ⑰ 学則・規程集
- ⑱ 学校案内
- ⑲ ウェブサイト [学校案内]
- ⑳ 大学ポートレート
- ㉑ 学校法人小池学園のビジョン
- ㉒ 学校法人小池学園事業計画書「2 埼玉東萌短期大学」
- ㉓ 自己点検・評価報告書、年次報告書
- ㉔ 学校法人小池学園規程集

(6) 評価のための数量的データ等

- ① 単位修得状況
- ② 学位取得状況
- ③ 退学率、除籍率、留年率
- ④ 保育士資格取得率
- ⑤ 幼稚園教諭2種免許状取得率
- ⑥ その他の資格取得率
- ⑦ 成績（GPA）の状況
- ⑧ 就職率、進学率、就職先、進学先
- ⑨ 授業評価アンケート結果
- ⑩ 実習先からの評価
- ⑪ 実習達成状況
- ⑫ 入学時調査、2年進級時調査、卒業時調査の結果
- ⑬ 短期大学生調査の結果
- ⑭ 学修時間、学修行動に関する調査の結果
- ⑮ 卒業生調査結果
- ⑯ 卒業生の就職先調査結果
- ⑰ その他

2. 「授業科目レベル」における評価の対象

- (1) シラバスの適正性
- (2) 学位課程、保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程及びその他の課程の基準や指針との適合性
- (3) 授業計画（シラバス）の達成状況
- (4) 授業内容の充実度
- (5) 授業方法の充実度
- (6) 成績評価の正確性、的確性
- (7) 学位課程、保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程及びその他の課程の教育課程で、当該授業科目は有機的かつ有効に機能したか。
- (8) 授業科目の成績評価からみた学習達成度評価、GP 分布
- (9) 授業科目の出席率からみた学習評価
- (10) 授業科目の課題の達成状況からみた授業評価
- (11) 授業科目の成績評価の達成状況からみた授業評価
- (12) 授業科目の受講態度からみた授業評価
- (13) 学生による授業評価結果からみた授業評価
 - ① 授業の学習内容、学習方法、学習達成度についての学生の自己評価
 - ② 授業時間外学習、授業時間外学習課題の取り組みを含む授業への学生自身の取り組み状況についての自己評価
 - ③ 授業態度についての学生の自己評価
 - ④ 授業の満足度についての学生の自己評価
 - ⑤ 授業に対する教員の授業内容、授業方法、学生への学習支援についての学生の評価

3. 「学生個人レベル」における評価の対象

- (1) 「全学・教育プログラムレベル」における「評価対象」についての各学生の到達度評価
- (2) 「授業科目レベル」における「評価対象」についての各学生の到達度評価
- (3) 「入学時調査」、「2年進級時調査」、「卒業時調査」、「学生による授業評価アンケート」、「短期大学生調査」等の各種アンケート調査における各学生の自己評価からみえる各学生の到達度評価
- (4) 「実習日誌」の記録の分析から見える各学生の学習到達度評価
- (5) 「教職課程履修カルテ」、「保育士課程履修カルテ」から見える各学生の学習到達度評価
- (6) 「学修ポートフォリオ」の記録の分析から見える各学生の各種到達度評価
- (7) 各種個人面談記録から見える各学生の各種到達度評価
- (8) その他

6 短期大学の4つのフィールドにおける各段階の位置づけ

入 学 前		短期大学の4つの段階				卒 業 後
		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	
プレカレッジ (入門)		基礎段階 <i>groundwork</i>	基本段階 <i>framework</i>	発展段階 <i>development</i>	統合段階 <i>integration</i>	卒業後 (保育者支援)
フ ィ ー ルド	授 業 (学 修)	○短期大学の学修の導入 ○保育、教育、福祉とは何かを考えていく基礎をつくる ○発達のプロセスを理解する ○保育内容の5領域の意味とその相互関係を理解する	○保育所、幼稚園の観察・参加・部分実習を通し、児童福祉や幼児教育の社会的意義を理解する ○保育、教育、福祉とは何かを考えていく基礎をつくる ○保育技術の基本を身につける ○保育者としてのあり方を考える	○乳児、障害児・者、社会的養護を必要とする子ども、保護者と対象にあわせた支援方法を学ぶ ○保育技術を実践に活かし、保育力・指導力を高める ○指導計画の立案、実践、記録、評価を学び、省察することの大切さを知る	○2年間の学修の総仕上げとまとめを行う ○省察力を高める ○保育者としての仕事と、短期大学での学修を結びつける ○課題を発見し、保育者として卒業後も成長しつづけていく意識を養う	
	実 習	前期 プレ実習体験 保育の現場に触れる。子どもたちの園での姿を観察する。	11月 教育実習（幼稚園）Ⅰ 2月 保育実習Ⅰ 観察・参加・部分実習を通じて、幼児教育・保育の基本を理解する。発達に即した保育者の関わり方を理解する。身につけた保育技術を実践する。	5月 保育実習Ⅱ 多様な対象者の理解と支援を実践的に学ぶ。 6月 教育実習（幼稚園）Ⅱ 保育の理論と技術の総合的な体験。それまでの実習での苦手克服。	11月 保育実習Ⅲ 保育実習Ⅳ 2年間の学修の集大成。保育者としての自己の課題の発見と理解。	

フ イ ー ル ド	キャンパスライフ		○短期大学生生活の理解 ○友人や先輩、教員と知り合い、親睦を図る ○学修を中心とした生活習慣を整える ○学友会やクラブ活動に参加する	○学修を中心とした自律的な生活習慣の確立 ○友人や先輩、教員、実習先などの学外の方とのコミュニケーションを学び、課題を発見する ○行事に協力して取り組む ○行事への取り組みを通して、企画、立案、実施、活動評価を行う ○2年生より活動の引き継ぎを受け、責任感を養う	○学修、実習、就職活動のスケジュールを自己管理し、自律的な生活習慣の確立 ○短期大学の2年生としての自覚を持ち、卒業・就職までの流れをつかむ ○新入生を迎え、学友会、クラブ活動などにおいて、リーダーシップを発揮する ○自身と異なる他者を受け入れることを学ぶ	○行事への取り組みを通して、全体を把握した上で、企画、立案、実施、活動評価を行う。その中で、1年生の活動を支援、指導する ○自立に向けた準備に取り組む ○2年間の学生生活全体を振り返り、卒業後の課題とそれへの取り組みを自覚する
	キャリア形成	キャリア・プランニング	○自己理解 ○働くことの意義を理解し、ライフデザインを考える ○卒業後の進路に向けて、2年間の短大生活の見通しを立てる	○進路や職業に関する情報を収集する ○保育の仕事について理解をすすめる	○自己の特性を理解し、どのような保育者になりたいかの目標を見い出す	○2年間の学修のまとめを行い、保育の仕事とつなげていく ○卒業後のキャリア形成について見通しをもつ
		就職活動	○就職についての基礎的な知識を身につける	○就職活動に必要なスキルを身につける ○公務員志望者は試験対策を行う	○希望業種および就職志望先を決定する ○就職試験の準備を行い、受験する ○公務員試験の受験	○就職先の決定 ○就職先へ必要書類を提出する ○就職前研修等への参加

8 実践力のある保育者に必要な力の到達度評価のためのルーブリック

(フィールド1) 授業(学修)

実践力のある保育者に必要な学力の到達度評価のためのルーブリック

評価尺度 評価観点 10の力	レベル4 AA	レベル3 A	レベル2 B	レベル1 C	レベル0 D	該当科目
	100点(100～90点) 極めてすばらしい達成水準である	85点(89～80点) 優れた達成水準である。	75点(79～70点) 良好な達成水準である。	65点(69～60点) 必要最低限な水準をクリアしたが、さらに努力が必要である。	50点(59～0点) 必要最低限の水準に達しなかった。一層の努力が必要である。	
評価観点1 子どもと向き合うおとなとしての基礎力	評価基準1-4 短期大学生としての学問的な“学び”の意味を理解し、主体的な学習態度が身についている。論理的な文章を作成することができる。情報機器を適切に操作することができる。	評価基準1-3 短期大学生としての主体的な学習態度を身につけている。文章表現が優れ、必要な情報機器操作もマスターしている。	評価基準1-2 短期大学生として、主体的に学習する姿勢が必要であることを理解している。文章作成、情報機器操作の基本を身につけている。	評価基準1-1 短期大学生として主体的に学習する姿勢が必要であることに気づいている。文章作成、情報機器操作の基本の修得にさらに努力が必要である。	評価基準1-0 短期大学生に必要な学習態度についての理解が不十分である。	基礎ゼミ、基本ゼミ、日本語表現、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、情報機器演習Ⅰ・Ⅱ、体育理論、体育実技
評価観点2 子どもと向き合うおとなとしての教養	評価基準2-4 社会的な出来事や人間的な営みについて、関心が高く、新聞や本などと日常的に接することができる。教養を身につけていくことの意味を十分に理解している。	評価基準2-3 社会的出来事や人間的な営みについて、関心を持っている。新聞や本を読むことが習慣となっており、教養を身につける意味を理解している。	評価基準2-2 社会的出来事や人間的な営みに関心を持つようとしている。新聞や本を読むことを習慣づけている。	評価基準2-1 社会人としての教養が必要であることに気づいている。社会的な出来事への関心を高める努力が必要である。	評価基準2-0 社会人として教養が必要であることについての理解が不十分である。	発展ゼミ、統合ゼミ、文学入門、心理学、日本国憲法、美術鑑賞、地球環境入門
評価観点3 子どもの生活とあそびを充実させる力	評価基準3-4 音楽、造形、言葉、身体的表現活動の技術が高く、それを用いて子どもの生活とあそびを充実させるために構成することができる。	評価基準3-3 音楽、造形、言葉、身体的表現活動のうち、得意な領域を持ち、他領域の技術も用いることができる。	評価基準3-2 音楽、造形、言葉、身体的表現が、子どもの生活とあそびに深くかかわることを理解している。得意な表現技術の領域を持ち、他領域の技術もほそごうとしている。	評価基準3-1 音楽、造形、言葉、身体的表現が、子どもの生活とあそびに深くかかわることについては、基本的に理解できている。表現技術の習得にさらに努力が必要である。	評価基準3-0 音楽、造形、言葉、身体的表現が、子どもの生活とあそびに深くかかわることについての理解が不十分である。	幼児と音楽表現Ⅰ、幼児と音楽表現Ⅱ、幼児と音楽表現Ⅲ、幼児と音楽表現Ⅳ、幼児と造形表現Ⅰ、幼児と造形表現Ⅱ、幼児と造形表現Ⅲ、幼児と造形表現Ⅳ、幼児と健康Ⅰ、幼児と健康Ⅱ、幼児と言葉、幼児と環境
評価観点4 保育・教育・福祉を理解する力	評価基準4-4 保育、教育、福祉の本質と現状について、基本的な理解ができる。保育士、幼稚園教諭、保育教諭の役割に必要な資質について理解ができる。	評価基準4-3 保育、教育、福祉の本質と現状について、基本的な理解ができる。保育士、幼稚園教諭、保育教諭の役割に必要な資質について、基本的な理解ができる。	評価基準4-2 保育、教育、福祉の本質と現状について、基本的な理解が得られるように努力している。保育士、幼稚園教諭、保育教諭の役割に必要な資質についての理解の必要性を認識している。	評価基準4-1 保育、教育、福祉の本質と現状の理解の必要性について認識している。	評価基準4-0 保育、教育、福祉の本質と現状の理解の必要性について、認識が不十分である。	教職概論(保育者・教師論)、教育原理、保育原理、子ども家庭福祉、社会福祉、子ども家庭支援論、社会的養護Ⅰ
評価観点5 子ども・保護者を理解する力	評価基準5-4 子どもの心身の健康や発達について理解できる。子どもにとっての家庭の役割や保護者への支援に必要な視点を理解できる。	評価基準5-3 子どもの心身の健康や発達について理解できる。子どもにとって家庭の役割、保護者への支援について理解しようとしている。	評価基準5-2 子どもの心身の健康や発達について、基本的な理論を理解している。	評価基準5-1 子ども・保護者についての理解の必要性について認識している。心身の健康、発達の理解にはさらに努力が必要である。	評価基準5-0 子ども・保護者についての理解の必要性の認識が不十分である。	こども文化Ⅰ、こども文化Ⅱ、教育心理学、子ども家庭支援の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、子どもの健康と安全
評価観点6 保育の内容・指導を組み立てる力	評価基準6-4 子どもの発達に応じた活動のねらい、目標を設定し、長期、短期の保育の内容、指導を組み立てることができる。	評価基準6-3 子どもの発達に応じた活動のねらい、目標を設定できる。短期の保育の内容、指導の構成が考えられる。	評価基準6-2 子ども、利用者の姿をイメージし、その発達や状態にあわせてねらい、目標を設定できる。活動ごとの、保育の内容、指導を組み立てる上での配慮事項を検討できる。	評価基準6-1 子ども、利用者の姿をイメージして園、施設での指導を考えようとしているが、ねらい、目標の設定ができるためには努力が必要である。	評価基準6-0 子ども・利用者の姿をイメージすることが不十分で、園、施設での指導を考えることができない。	教育課程論、保育内容総論、保育内容(健康)指導法、保育内容(人間関係)指導法、保育内容(環境)指導法、保育内容(言葉)指導法、保育内容(音楽表現)指導法、保育内容(造形表現)指導法、保育内容(身体表現)指導法、保育内容(総合表現)指導法
評価観点7 いろいろな子ども・保護者とかかわる力	評価基準7-4 乳児保育、障害児保育、社会的養護についての基本をおさえ、対象に応じたかわりが必要なことを理解できる。レクリエーションやキャンプの活動、支援や相談の方法について、得意な分野を持っている。	評価基準7-3 乳児保育、障害児保育、社会的養護についての基本をおさえ、対象に応じたかわりが必要なことを理解できる。支援方法を身につけようとしている。	評価基準7-2 乳児保育、障害児保育、社会的養護の基本を押さえることの必要性を認識している。	評価基準7-1 対象に応じたかわり方が必要であることについては、理解できている。乳児、障害児、社会的養護を必要とする児童、保護者への対応についての理解にさらに努力が必要である。	評価基準7-0 対象に応じたかわり方が必要であることについての理解が不十分である。	幼児教育方法論、乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、障害児保育Ⅰ、障害児保育Ⅱ、社会的養護Ⅱ、子育て支援、教育相談、レクリエーション演習、野外活動演習、特別支援教育、子ども理解の理論と方法
評価観点8 保育の技能	評価基準8-4 保育技能の習得により、保育、幼児教育の多形で変化に富んだ実践能力を発揮できる。	評価基準8-3 保育の技能の得意な領域を持ち、その他の領域についても技能の向上に努めている。実践場面での活用について工夫している。	評価基準8-2 保育の技能の基本を身につけている。得意な領域をさらに伸ばそうと努めている。実践場面での活用には、一層の努力が必要である。	評価基準8-1 保育、幼児教育の場で、保育技能が必要であることを理解し、技能への興味・関心を持っているが、技能の基本を身につけるためには、さらに努力が必要である。	評価基準8-0 保育、幼児教育の場における保育技能の必要性は知っているが、興味、関心を持って習得していない。	保育技能Ⅰ、保育技能Ⅱ、ピアノ基礎技能A、ピアノ基礎技能B、ピアノ基礎技能C
評価観点9 現場を体験し、学修と実践を結びつける力	評価基準9-4 各実習のねらいと目標を十分に理解し、実習の成果をあげることができる。日頃の学修と実習における実践を結びつけて生かすことができ、その中から自己の課題を発見できる。	評価基準9-3 各実習のねらいと目標を理解し、実習の成果をあげることができる。日頃の学修と実習における実践を結びつけて生かそうとしている。	評価基準9-2 各実習のねらいと目標を理解し、実習に取り組んでいる。実習での体験から学んだことと、日頃からの学修を結びつけるには、さらに努力が必要である。	評価基準9-1 各実習のねらいと目標を理解しようとしている。実習に取り組む姿勢、注意点は認識している。	評価基準9-0 現場体験の必要性は知っているが、各実習のねらいと目標を理解していない。	基礎ゼミ、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅲ、保育実習Ⅲ、保育実習指導Ⅳ、保育実習Ⅳ、教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅰ、教育実習(幼稚園)Ⅰ、教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅱ、教育実習(幼稚園)Ⅱ、保育・教職実践演習(幼稚園)
評価観点10 キャリア・就職を見通し、自己研鑽を続ける力	評価基準10-4 将来の目標、就労後の理想とする保育者像を描くことができ、自己研鑽を続けることができる。	評価基準10-3 将来の目標、就職後の理想とする保育者像を描くことができる。そのため、自己研鑽が必要であることを理解している。	評価基準10-2 将来の目標、就労後の理想とする保育者像を描くことができ、自己研鑽を続けることができる。そのため、自己の課題を明確にするには、さらに努力が必要である。	評価基準10-1 将来の目標を見出そうと努力しており、人生設計の必要性は認識している。	評価基準10-0 将来の目標があいまいで、人生設計が困難である。	基本ゼミ、発展ゼミ、統合ゼミ、保育キャリア形成演習Ⅰ、保育キャリア形成演習Ⅱ

(フィールド2) 実習・ボランティア活動

実践力のある保育者に必要な保育実践力の到達度評価のためのルーブリック

評価尺度	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	レベル0	該当科目など
	AA	A	B	C	D	
評価観点 10の力	100点(100～90点)	85点(89～80点)	75点(79～70点)	65点(69～60点)	50点(59～0点)	
	極めてすばらしい達成水準である	優れた達成水準である。	良好な達成水準である。	必要最低限な水準をクリアしたが、さらに努力が必要である。	必要最低限の水準に達しなかった。一層の努力が必要である。	
評価観点1 園、施設の役割と機能、生活と業務の流れを理解する力	評価基準1-4 法令に基づき、園、施設の役割を十分理解するとともに、地域社会と保護者から求められる役割の中で、園、施設の機能を理解し、長期、短期の業務の流れを理解できる。	評価基準1-3 園、施設の役割と機能を理解している。生活と業務の一日の流れ、一週間の流れを理解している。	評価基準1-2 園、施設の役割と機能を理解しようとして努力している。生活と業務の一日の流れ、一週間の流れを理解できる。	評価基準1-1 園、施設の役割と機能の理解が必要であることは認識しているが、十分な理解には至っていない。生活と業務の一日の流れを理解しようとして努力している。	評価基準1-0 園、施設の役割と機能について、不正確な理解がみられる。生活と業務の流れの理解が不十分である。	
評価観点2 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容と役割、チームワーク、職業倫理を理解する力	評価基準2-4 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟知し、保育者の役割を十分理解している。チームワーク、職業倫理について高い意識を持っている。	評価基準2-3 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育者の役割を理解している。チームワーク、職業倫理についての意識を持っている。	評価基準2-2 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容と役割を理解している。チームワーク、職業倫理を理解している。チームワーク、職業倫理の必要性は認識している。行動できるようさらに意識を高める努力が必要である。	評価基準2-1 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容と役割を理解しようとして努力している。チームワーク、職業倫理の必要性は認識している。行動できる。さらに努力が必要である。	評価基準2-0 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容と役割を理解していない。チームワーク、職業倫理について理解が不十分である。	
評価観点3 保育計画、指導計画、指導案を立案する力	評価基準3-4 ねらい、目標を的確に設定し、長期、短期の計画を作成することができる。子ども、利用者の姿をイメージし、活動の展開を工夫した指導案を立案することができる。	評価基準3-3 ねらい、目標を設定し、短期の計画を作成することができる。子ども、利用者の姿をイメージし、活動の展開を工夫した指導案を立案できる。	評価基準3-2 子ども、利用者の姿をイメージし、その発達や状態に合わせてねらい、目標を設定できる。活動ことの保育の内容、指導を組み立てる上の配慮事項を検討できる。	評価基準3-1 子ども、利用者の姿をイメージして園、施設の活動を考えているが、ねらいと目標を設定した立案には、さらに努力が必要である。	評価基準3-0 子ども、利用者の姿をイメージすることが不十分で、保育計画、指導計画、指導案を立案できない。	
評価観点4 保育の方法と技能、支援の技術を効果的に実践に適用する力	評価基準4-4 保育の方法と技能、支援の技術のレパートリーが広く、常に質を高める努力を続けている。場面に応じて、組み合わせて実践することで、柔軟で効果的な活動を工夫できる。	評価基準4-3 保育の方法と技能、支援の技術の中で、得意な領域を持ち、その他の領域についても向上に努めている。実践場面から学ぶことができる。	評価基準4-2 保育の方法と技能、支援の技術の基本を身につけている。実践場面での活用には、一層努力が必要である。	評価基準4-1 保育の方法と技能、支援の技術が必要であることを理解し、興味・関心を持って取り組んでいる。さらに努力が必要である。	評価基準4-0 保育の方法と技能、支援の技術の習得が不十分である。	基礎ゼミ 基本ゼミ 発展ゼミ 統合ゼミ 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ
評価観点5 子どもや利用者(個人及び集団)に適切に関わることでできる力	評価基準5-4 一人ひとりの子どもや利用者、発達や個性を踏まえた適切な関わりができる。集団への指導や働きかけについて理解し、状況に応じた対応ができる。	評価基準5-3 一人ひとりの子どもや利用者、発達や個性を踏まえたかかわりと努めている。集団への状況に応じた指導や働きかけ方を工夫している。	評価基準5-2 一人ひとりの子どもや利用者、発達や個性を踏まえたかかわりが必要であることが理解できる。集団への指導や働きかけ方を工夫している。	評価基準5-1 挨拶、言葉遣い、他者の話を聞く姿勢などの基本的な態度が身につけている。一人ひとりの子どもや利用者の発達や個性を踏まえてかかわるには、さらに努力が必要である。	評価基準5-0 挨拶、言葉遣い、他者の話を聞く姿勢などの基本的な態度が不十分である。	教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅰ 教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅱ 保育実習Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習Ⅳ 教育実習(幼稚園)Ⅰ 教育実習(幼稚園)Ⅱ 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅱ 保育内容総論 保育内容(健康)指導法 保育内容(人間関係)指導法 保育内容(環境)指導法 保育内容(言葉)指導法 保育内容(音楽表現)指導法 保育内容(造形表現)指導法 保育内容(身体表現)指導法 保育内容(総合表現)指導法 ボランティア活動 実習ガイドブックの活用 自己実現ノート(学修ポートフォリオ)の活用 その他
評価観点6 実習日誌、観察記録、実践記録を作成し、記録に基づき省察、評価を行う力	評価基準6-4 観察、実践の記録を的確に作成することができる。記録に基づき、活動について考察することができる。次の目標の設定に結びつけることができる。	評価基準6-3 観察、実践の記録を作成することができる。これに基づいて活動について考察することができる。	評価基準6-2 観察、活動を理解し、実習日誌、観察記録、実践記録を作成できる。記録に基づき省察、評価を行うことを理解している。	評価基準6-1 観察、活動の理解を行い、実習日誌、観察記録、実践記録を作成しようとするが、文章に表現するためにさらに努力が必要である。	評価基準6-0 観察、活動の理解が不十分で、実習日誌、観察記録、実践記録への記録に困難である。漢字の使用に間違いが多く、正しい文章表現ができない。	
評価観点7 園、施設において協調、協働して役割を果たすことができる力	評価基準7-4 他者を理解し受容することができる。協調性がある。園、施設において協調した取り組みを行うことの意義を理解し、自己の役割を果たすことができる。	評価基準7-3 他者を理解し受容することができる。協調性がある。協働した取り組みを行うことの意義を理解し、自己の役割を果たそうと努力している。	評価基準7-2 他者を理解し受容することができる。園、施設において、協調して役割を果たすことに努めている。	評価基準7-1 他者を理解し、受容しようとする姿勢はあるが、園、施設において協調して役割を果たすには、さらに努力が必要である。	評価基準7-0 他者を理解し、受容しようとする姿勢が不十分で、園、施設において協調して役割を果たす意識が不十分でない。	
評価観点8 家庭や地域との連携や対応の仕方を理解する力	評価基準8-4 家庭や地域との連携の必要性について認識し、多様な対応の仕方を理解している。	評価基準8-3 家庭や地域との連携の必要性について認識し、対応の仕方の基本を理解している。	評価基準8-2 家庭や地域との連携の必要性について認識し、対応の仕方の基本を理解しようとしている。	評価基準8-1 家庭や地域との連携が必要であることについて、認識している。	評価基準8-0 家庭や地域との連携についての意識が不十分である。	
評価観点9 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の使命、求められる資質・能力を理解し、自己の課題を発見する力	評価基準9-4 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の使命を自己のものとして理解し、求められる資質・能力に対して自己の課題を発見し、研鑽を続けていくことができる。	評価基準9-3 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の使命を理解し、求められる資質・能力に対して、自己の課題を発見している。	評価基準9-2 幼稚園教諭、保育士、保育教諭に求められる職務内容と役割を理解し、自己の課題を発見しようとして努力している。	評価基準9-1 幼稚園教諭、保育士、保育教諭に求められる資質・能力を理解しようとして努力しているが、自己の課題と結びつけて考えるには、さらに努力が必要である。	評価基準9-0 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の使命、求められる資質・能力の理解が不十分で、自己の課題を発見しようとしていない。	
評価観点10 知識、技能を統合的に活用し、問題を解決する力	評価基準10-4 問題に対し、身につけた知識、技能を、場面に即して統合的に活用して取り組み解決できる。	評価基準10-3 実践場面で必要な知識技能を身につけている。問題に即して知識技能を統合して取り組みうと努めている。	評価基準10-2 実践場面で必要な知識技能の基本を身につけている。問題解決するために、身につけた知識・技能を活用するには、さらに努力が必要である。	評価基準10-1 実践場面で必要な知識、技能を身につけることについて意欲を示しているが、実際に習得するにはさらに努力が必要である。	評価基準10-0 必要な知識、技能は認識しているが、実践場面で活用できない。	

(フィールド3) キャンパスライフ

実践力のある保育者に必要な人間的資質能力の到達度評価のためのルーブリック

評価尺度 評価観点 10の力	レベル4 AA	レベル3 A	レベル2 B	レベル1 C	レベル0 D	該当する活動
	100点(100～90点) 極めてすばらしい達成水準である	85点(89～80点) 優れた達成水準である。	75点(79～70点) 良好な達成水準である。	65点(69～60点) 必要最低限な水準をクリアしたが、さらに努力が必要である。	50点(59～0点) 必要最低限の水準に達しなかった。一層の努力が必要である。	
評価観点1 主体性、自主性を持って生活できる自己管理能力	評価基準1ー4 自律的な生活習慣が確立し、主体的、自主的に計画性を持って自己の生活を管理することができる。生活意欲が非常に高い。	評価基準1ー3 自律的な生活習慣が確立し、自己の生活を主体的、自主的に組み立てようと努力している。	評価基準1ー2 スケジュールを管理し、計画的に生活することができる。	評価基準1ー1 一日の生活の管理は、自身で行うことができる。スケジュールを管理し、計画的に生活するには、さらに努力が必要である。	評価基準1ー0 計画的で自立した生活の必要性は知っているが、生活の自己管理ができない。	東萌祭、クラブ活動、 学友会活動、各実習 における活動、学修 への取り組み 自己実現ノート(学修 ポートフォリオ)の活 用
評価観点2 正しいマナー、言葉遣いを用いる力	評価基準2ー4 場の状況、接する相手によって正しいマナー、言葉遣い、敬語を用いることができる。日常的な挨拶、環境整備にも心配りがある。	評価基準2ー3 マナー、敬語の使い方、正しい言葉遣いの基本を身につけている。	評価基準2ー2 敬語の使い方について理解しようと努め、言葉遣いに注意している。正しいマナーを身につけるには、さらに努力を必要とする。	評価基準2ー1 日常的な挨拶ができ、言葉遣いにも自ら注意をしている。敬語の使い方について、十分理解しておらず、さらに努力が必要である。	評価基準2ー0 正しいマナー、言葉遣いを用いることの必要性は知っているが、その内容の理解には至らない。	
評価観点3 情報を収集し、的確に発信する力	評価基準3ー4 適切に情報収集を行い、文書作成、プレゼンテーションにより、的確に発信することができる。対象、内容により、発信方法を選択工夫することができる。	評価基準3ー3 適切に情報を収集し、文書作成、プレゼンテーションにより、的確に発信することができる。	評価基準3ー2 適切に情報を収集している。文書作成、プレゼンテーションにより、的確に発信できるように努力している。	評価基準3ー1 適切な情報収集の必要性は認識しているが、情報を正しく取捨選択するところまで至っていない。プレゼンテーション、コメントの基本的な形式は理解している。	評価基準3ー0 信頼できる情報源からの正しい情報が得られず、発信の方法がわからない。	
評価観点4 社会的責任を自覚し、行動する力	評価基準4ー4 社会的な常識を有し、市民としての自覚、社会的責任の意識に基づき行動することができる。	評価基準4ー3 社会的常識について、基本的に理解し、社会的責任を自覚して行動することができる。	評価基準4ー2 社会的常識について基本的に理解している。社会的責任について理解し、それに基づいて行動しようとしている。	評価基準4ー1 社会的常識を身につける必要性を認識し、努力している。社会的責任の自覚について、さらに努力が必要である。	評価基準4ー0 社会的常識に欠け、社会的責任の意識が不十分である。	
評価観点5 自ら課題を発見し、合理的に取り組める創造力	評価基準5ー4 現状を的確に分析し、課題を発見し、豊かな発想力を持って創造的に取り組むことができる。	評価基準5ー3 現状の分析に基づき、自ら課題を発見し、創造的に取り組むことができる。	評価基準5ー2 現状を把握し、そこから課題を発見し、取り組むことができる。	評価基準5ー1 現状を把握し、そこから課題を発見することの必要性は理解しているが、実行するためにはさらに努力が必要である。	評価基準5ー0 発想力が不十分で、課題の発見が困難である。	
評価観点6 他者を受容し、協調性を持って行動する共生力	評価基準6ー4 他者を理解し、コミュニケーション能力を発揮して他者を受容することにより、文化、個性の異なる他者とも共生することができる。	評価基準6ー3 他者を理解し受容して、協調性を持って行動することができる。	評価基準6ー2 他者を理解し受容して、協調性を持って行動しようとしている。	評価基準6ー1 他者を理解し、受容することの必要性を認識し、協調性を持って行動しようという意識を持っている。	評価基準6ー0 他者を理解し受容する力が不十分であり、コミュニケーション能力に偏りがある。	
評価観点7 チームワーク力	評価基準7ー4 場面に応じた適切なリーダーシップ、フォローアップを発揮して、チームワークを形成することに貢献できる。	評価基準7ー3 場面に応じて、適切なリーダーシップ、フォローアップを発揮できるチームワークの形成に貢献しようとしている。	評価基準7ー2 チームワークを形成する上で、自分自身の得意な分野、役割、苦手な分野、役割を理解している。	評価基準7ー1 チームワークを形成する上で、自分自身の得意な分野、役割、苦手な分野、役割に気づこうとしている。	評価基準7ー0 リーダーシップ、フォローアップともに不十分であり、チームワークに困難がある。	
評価観点8 困難な状況に立ち回って対応できる力	評価基準8ー4 困難な状況にも感情の安定性を保ち、忍耐力を持って状況に冷静に対応することで、失敗や挫折から立ち直り、自己の成長の糧とできる。	評価基準8ー3 困難な状況にも、落ち着いた忍耐力を持って対応できる。失敗や挫折を自己の成長の糧としようと努力している。	評価基準8ー2 困難な出来事が発生した時に、すぐにあきらめず、落ち着いた行動でできる。	評価基準8ー1 困難な出来事が発生した時に、すぐにあきらめず、落ち着いた行動しようとしているが、実行できないことも多く、さらに努力が必要である。	評価基準8ー0 忍耐力が不十分で、状況に立ち回って対応できず、失敗から立ち直ることが困難である。	
評価観点9 倫理観を持って行動する力	評価基準9ー4 自己の中に倫理的行動基準が形成され、公平、誠実な態度で行動することができる。	評価基準9ー3 自己の中に倫理的行動の基準を持つようとしている。公平、誠実な態度で行動しようとしている。	評価基準9ー2 倫理的な行動基準を持つことの意義を理解している。公平、誠実な態度で行動しようとしている。	評価基準9ー1 公平、誠実な行動とそうでない行動との区別ができ、自らは公平、誠実であろうという意識を持っている。	評価基準9ー0 倫理観への意識が不十分で、公平、誠実な態度で行動することが難しい。	
評価観点10 自己省察のもとつぎ、成長しつづける力	評価基準10ー4 目標を設定し、自己の体験について自己省察、自己評価を行い改善していくスタイルが確立している。高い自己啓発力、自己研鑽力を有している。	評価基準10ー3 自己の体験について、自己省察し自己評価改善していくことができる。	評価基準10ー2 自己の体験について、自己省察、自己評価し、改善点を見ようとしている。	評価基準10ー1 体験したことについて、振り返って考えようという意識を持っているが、改善点の発見までには至らない。	評価基準10ー0 自己の体験について、省察、自己評価に基づいて実践する意識が乏しい。	

(フィールド4) キャリア・プランニング、就職活動

実践力のある保育者に必要なキャリア形成力、就職力の到達度評価のためのルーブリック

領域	評価尺度 評価観点 10の力	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	レベル0	該当科目、就職講座、就職準備活動など
		AA	A	B	C	D	
		100点(100～90点) 極めてすばらしい達成水準である	85点(89～80点) 優れた達成水準である。	75点(79～70点) 良好な達成水準である。	65点(69～60点) 必要最低限な水準をクリアしたが、さらに努力が必要である。	50点(59～0点) 必要最低限の水準に達しなかった。一層の努力が必要である。	
キャリア・プランニング	評価観点1 客観的な視点から自己分析を行う力	評価基準1-4 自分自身の強み、弱みを客観的に把握し、強みを伸ばす方策、弱みを補う方策への見通しを持って自己分析できる。	評価基準1-3 自分自身の強み、弱みを客観的に把握することができる。強みを伸ばす方策、弱みを補う方策を検討することができる。	評価基準1-2 自分自身の強み、弱みを客観的に把握することができる。	評価基準1-1 客観的に自己理解しようという意識はあるが、不十分でありさらに一層の努力が必要である。強み、弱みを把握しようと努めている。	評価基準1-0 自己理解が主観的で偏っており、強み、弱みをバランスよく把握することができない。	基本ゼミ 発展ゼミ 統合ゼミ 保育キャリア形成演習Ⅰ 保育キャリア形成演習Ⅱ 保育・教職実践演習(幼稚園)
	評価観点2 学ぶこと、働くことの意義や人生にとっての役割を理解する力	評価基準2-4 学ぶこと、働くことの意義を十分に理解し、自分自身の生きがいと結び付けて捉えることができる。	評価基準2-3 学ぶこと、働くことの意義を理解し、自分自身の生きがいと結び付けて捉えようとしている。	評価基準2-2 学ぶこと、働くことの意義を理解している。自分自身の生きがいを考えようとしているが、学ぶこと、働くこととのつながりを明らかにするにはさらに努力が必要である。	評価基準2-1 学ぶこと、働くことの意義を理解しようとしているが、自分自身の生きがいとのつながりが明確でない。	評価基準2-0 学ぶこと、働くことの意義が十分理解されておらず、自分の人生とのつながりに気づいていない。	
	評価観点3 職業生活に関する人生設計力を持ち、キャリアビジョンを描く力	評価基準3-4 自分自身の人生設計の中に、職業生活を位置付けてキャリアビジョンを描くことができる。	評価基準3-3 自分自身の人生の中に、職業生活を位置付けて設計することができる。	評価基準3-2 自分自身の人生の中に、職業生活を位置付けて設計しようとしている。	評価基準3-1 卒業後の職業生活についてビジョンを描こうとしているが、人生の設計が出来ずにいる。	評価基準3-0 職業生活へのビジョンを持つことの必要性は気づいているが、設計が困難である。	
	評価観点4 将来の目標の実現に向かい、具体的に行動する力	評価基準4-4 将来の目標が明確で、目標実現のための具体的なプロセスを計画的にすすめることができる。	評価基準4-3 将来の目標をはっきりと描いている。目標実現のための具体的なプロセスが明らかになっている。	評価基準4-2 将来の目標を具体化しようとしている。自己の課題を明確にするには、さらに努力が必要である。	評価基準4-1 将来の目標を見出そうと努力しており、人生設計の必要性は認識しているが具体的に何をすればよいかを明確にするには一層の努力を必要とする。	評価基準4-0 将来の目標があいまいで、何をすればよいか不明瞭である。	
就職活動	評価観点1 就職に関する情報を収集し、正しく理解する力	評価基準1-4 志望する業種、職種について正しく理解し、就職情勢の情報も収集しており活用できる。志望業種、職種、地域が明確であり、求人票の読み方を理解し、自分で検討を行うことができる。	評価基準1-3 志望する業種、職種、就職情勢の情報を収集している。志望業種、職種の候補をあげ、求人票から情報を得ることができる。	評価基準1-2 就職志望業種、職種の情報を収集する方法を理解している。	評価基準1-1 就職志望業種、職種について情報収集の方法を理解しようと努力しており調べている。	評価基準1-0 就職志望業種、職種を明確にできず、情報収集の方法の理解が不十分である。	基本ゼミ 発展ゼミ 統合ゼミ 保育キャリア形成演習Ⅰ 保育キャリア形成演習Ⅱ 保育・教職実践演習(幼稚園)
	評価観点2 就職活動のスケジュール管理及び事務手続きを行う力	評価基準2-4 就職試験日程を把握し、見通しを持って試験対策や事務手続きに関するスケジュール管理を適切に行うことができる。	評価基準2-3 就職試験とそれに向けた準備のスケジュールを立て、管理することができる。	評価基準2-2 就職試験や手続きについてのスケジュールを把握することができる。	評価基準2-1 就職事務手続きの流れは理解し、大まかな就職試験の活動時期は把握している。スケジュール管理を行う方法を工夫しようと努力している。	評価基準2-0 就職事務手続きが必要なことは知っているが、内容の理解に至らない。就職活動に関するスケジュールの見通しが持てない。	
	評価観点3 就職活動のマナーを身につける力	評価基準3-4 就職活動の清潔感のある身だしなみを身につけており、正しい敬語の使い方ができ、言葉遣い、電話対応、通信文の作成も適切である。	評価基準3-3 身だしなみを整えて、就職試験に臨むことができる。言葉遣い、電話対応、通信文作成の基本マナーを身につけている。	評価基準3-2 身だしなみ、挨拶、言葉遣いを整えて、就職試験に臨むことができる。電話対応、通信文の作成の方法を身につけるために、さらに努力が必要である。	評価基準3-1 挨拶や言葉遣い、身だしなみについて自ら注意している。	評価基準3-0 就職活動の身だしなみ、言葉遣い等、注意が必要なことは知っているが、その内容の理解には至らない。	
	評価観点4 履歴書、エントリーシートを作成する力	評価基準4-4 履歴書、エントリーシートを正しく書くことができるのみならず、志望動機、自己アピールの記述が適切で採用につながる書類作成ができる。	評価基準4-3 履歴書、エントリーシートを正しく書くことができる。志望動機、自己アピールを適切に記載できる。	評価基準4-2 志望先の理解と自己理解に基づき、志望の動機、自己アピールの記載を行う努力をしている。	評価基準4-1 志望の動機、自己アピールの記載への努力をしているが、十分に自分自身を表現するには、一層の努力が必要である。	評価基準4-0 履歴書、エントリーシートの形式は理解しているが、志望の動機、自己アピールを記載できない。	
	評価観点5 就職試験対策を行い合格する力	評価基準5-4 就職試験の種類と内容を把握し、筆記、面接、実技、論作文試験対策を万全に行い、採用試験に合格することができる。	評価基準5-3 就職試験の種類と内容を把握し、筆記、面接、実技、論作文試験対策を行うことができる。	評価基準5-2 就職試験の種類と内容を把握し、どのように試験対策を行えばよいかの見通しを持つことができる。	評価基準5-1 就職志望先の就職試験の内容、出題傾向は理解しているが、準備には一層の努力を必要としている。	評価基準5-0 就職志望先の就職試験の内容は知っているが、どのような対策を行うかの見通しが持てない。	
	評価観点6 就職内定を就職後の充実した職業生活につなげる力	評価基準6-4 就職内定を得ている。就職後の勤務を想定し、自己研鑽をすすめることができる。自己の特性を理解し、就職後の充実した職業生活のための課題を見出すことができる。	評価基準6-3 就職内定を得ている。就職後の勤務を想定し、自己研鑽を続ける意欲を持っている。就職後の充実した職業生活のための課題を見出している。	評価基準6-2 就職内定を得ている。就職後の勤務をイメージすることができる。勤務に向けての準備を行おうとしている。	評価基準6-1 就職内定を得ている。勤務に向けて準備が必要な事柄の理解が不十分である。	評価基準6-0 就職内定は得ていない。または、就職内定後勤務に向けて、準備が必要な事柄がわからない。	
							オリエンテーション(1年、2年) 就業スタートアップ講座 就職講演会～保育の仕事を知ろう！ 自己実現ノート(学修ポートフォリオ)

埼玉東萌短期大学アセスメント・ポリシー

発 行 者 埼玉東萌短期大学

〒343-0857 埼玉県越谷市新越谷 2 丁目 21 番地 1

Tel. 048-987-2345 Fax. 048-989-4550

URL <http://www.saitamatoho.jp>

発行年月日 2020 年 9 月 17 日

© 2020 埼玉東萌短期大学 無断転載を禁じます